

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4678700081
法人名	社会福祉法人 陸風会
事業所名	グループホーム わだつみ苑
訪問調査日	平成 21 年 8 月 24 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 6 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4678700081
法人名	社会福祉法人 陵風会
事業所名	グループホーム わだつみ苑
所在地	鹿児島県奄美市住用町西仲間字前田146-3 (電話) 0997-56-3777

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年8月24日	評価確定日	平成21年10月 6日

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000円 (光熱費)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名瀬徳洲会病院 ・ 奄美市住用国民保険診療所
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道58号線沿いの旧住用村役場近くにあるグループホームわだつみ苑は、奄美の自然豊かな環境の中にある。時折、アカショウビンやルリカケスなどの珍しい野鳥がホームを訪ねてくれる。静かなホームにはゆったりとした時間が流れ、穏やかな利用者の「自分らしい普通の生活」を職員は支えている。また、災害時の応援体制の協力を地域にお願いしたり、地域の子供達との交流、駐在所との交流など、地域との繋がりも深まりつつある。開設4年目を迎え、職員も定着しつつあり、これからの活動に期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については職員に報告している。改善課題は、重度化に向けた方針の共有で、話し合いは行なわれているが明文化までには至っておらず継続中である。災害対策については、運営推進会議で地域の協力体制をお願いしており、具体的な内容については検討しているところであり継続中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については取り組む時期が遅れたため、管理者と介護主任で話し合い自己評価を作っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は偶数月に、区長、婦人会、駐在所などの地域代表、行政、家族が参加し開催されている。事業所の状況報告、利用者の状態、行事活動報告後に、参加者による意見交換が行なわれている。事業所から災害時の協力体制を地域にお願いし、水害時に利用者の避難を手助けしてもらるように「おんぶ隊」を提案し協議中である。駐在所からは不審者対策の助言を頂いたり運営に活かす取り組みとなっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議の出席時や面会時などに意見や要望を言ってもらえるように配慮している。また、玄関には意見箱を置いて対応している。出された意見や要望は、連絡ノートを活用し職員で話し合い共有している。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>回覧板が回ってくるので地域の様子を知ることができる。散歩時には近所の方と挨拶したり、野菜を頂いたり、近所の子供が庭であそべるようにしている。地域の婦人会の方が利用者の話し合い手や本の読み聞かせのボランティアで来てくれる他、八月踊りなどの地域行事に参加している。</p>

2.評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしい普通の生活」という基本理念をもとにサブタイトルとして、「地域の方々との交流や地域社会への参加を支援いたします。」という地域密着型サービスの理念を加え、事業所独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、リビングや廊下に掲示し、職員が意識して対応できるようにしている。利用者が家に帰りたいたいという時には、ドライブの帰りに親類の家に寄ったり、墓参りに行くなど、地域との結ぶ付きが切れないように、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板を持って行ったり、散歩の時など声をかけ交流しており、近所から野菜を頂いたりしている。地域の婦人会のボランティアが話し相手に来てくれたり、中学校の職場体験の受け入れ、地域行事の八月踊りへの参加など、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については報告し、改善に向けた話し合いは行なわれているが、具体的な内容については検討中であり継続中である。今回の自己評価については、取り組む時期が遅かったため、管理者と介護主任だけでまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度、偶数月に、家族代表、区長、婦人会長、駐在所、行政担当者が参加し開催している。事業所の状況報告、利用者の状況、行事活動報告後、参加者による意見交換が行なわれている。駐在所から不審者対策についてのアドバイスを受けるなど、運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に出向いて行き、担当者には業務内容について疑問点を質問したり、情報を得るように務めている。担当者から認知症対応マニュアルの資料を頂き、事業所の勉強会に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「わだつみ苑便り」には、日常の様子を写した写真や行事案内を記載して家族に送付している。金銭出納についても毎月報告している他、面会時にも確認してもらっている。健康状態については変化があった時は電話で報告し、それ以外は面会時に日頃の様子などを伝えている。	○	家族が知りたい事が何であるかを考慮し、利用者の健康状態、日頃の様子、職員の異動などについてきめ細かな報告ができるように期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に何でも言ってもらえるような、雰囲気作りをこころがけている。出された意見や要望は、連絡ノートを活用し職員で話し合い共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は同じユニホームを着用しているため、利用者の混乱はないが、昨年の管理者の交代時には、利用者にて丁寧に報告し影響がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した時などには、職員会議で伝達講習をしている他、必要と思われる研修を定期的に行っている。また、職員の資格取得に向けた支援も行っている。	○	事業所内での研修計画を立て実施する事により、職員のスキルアップに繋げ、サービスの質の向上に努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の施設に見学に行ったり、法人内のグループホームと利用者を交えた交流をおこなっている。今後は、大島グループホーム連絡協議会が主催する研修会に参加していきたいと考えている。	○	同業者との交流をすることで、事業所内で行き詰まった問題の解決にもつながり、職員が自分のホームの良さに気づくことにもなります。これからの交流に期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から入所される方には、本人と家族に必ず見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらおうようにしている。病院からの場合には、病院やケアマネから情報を収集し、管理者が病院へ出向いて馴染みの関係を築いている。入所後は、家族の協力を得て、面会を多くして貰うようにするなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対し尊敬をこめた呼び名で呼び、利用者の話を傾聴するように心がけている。職歴を活かした、刺身の切り方を教えてもらったり、奄美伝統のよもぎ餅と一緒に作ったり、竹の子皮むきなどしてもらった時には感謝の言葉を伝えている。入眠時「ありがとね」の言葉に癒されながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、直接本人から意向を確認したり、言葉や行動、表情から把握するように努めている他、毎日の記録や職員会議での職員の気づきなども参考にしていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議には、本人、家族が参加しているが、難しい場合には、面会時や電話などで家族の意向を確認している。介護計画は、本人と家族の意向、職員の気づき、医師からのアドバイスをうけて、それぞれの意見を反映したものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行い、評価している。見直しは6ヶ月ごととしているが、体調の変化や家族からの要望があった時には、話し合い介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院により、24時間体制で医療支援ができるようになっており、往診も可能である。病院受診の他、墓参り、法事などへの移送サービス、お盆や正月などの外泊支援など臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。他科受診にも紹介状を書いてもらい対応している。職員や家族が付き添った場合でも、情報を共有させ適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には、終末期まで対応する方向となっているが、今までに重度化や終末期を迎えた利用者がいなかったため、明文化されていない。	○	重度化した場合の事業所としての対応の方向性を明確にし、関係者との話し合いの必要性を明文化して、意思確認書を作成し家族の同意を得ることを希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の守秘義務についての誓約書は、入職時に交わしている。個人情報やプライバシーについての勉強会は、職員会議で行なっているが、言葉遣いなどで気になることは、その都度指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や健康状態に応じ、起床時間をゆったりしたり、食事を居室で摂ったり、墓参りや美容院など利用者のペースと希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、野菜の皮むきなどの下ごしらえ、台拭き、片付け、おしぼりたたみなど、それぞれの力量に応じて手伝っている。献立は、利用者の希望を取り入れ、時にはラーメンの出前を取ったりと職員と同じテーブルを囲んで、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきになっているが、毎日でも対応できる。夏場はシャワー浴、冬は湯舟と季節と希望に応じている。利用者同志で仲良くはいる方もいれば、拒否されるかたには、ゆっくと穏やかにその人にあった声かけで工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、掃除機がけ、庭掃除、花の水かけなど、利用者は「何かないの」と言って手伝ってくれる。楽しみごとは、島唄のテープをかけ踊ったり、家庭菜園や菓子作り、気晴らしは、ドライブ、花見、潮干狩り、外食などである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前にはベンチが置いてあり、休憩したり日光浴したりしている。敷地内から、さくらの木や南国特有の植物を見たり、鳥のさえずりを聞く事ができるので、散歩する事が多い。戸外に出たがらない方には、ドライブの支援などを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、2時間おきの所在チェックをしながら見守りをしている。外出傾向の方は、把握しており、近隣の方にも協力をおねがいしている。駐在所の方がよく訪ねてくださり、顔見知りになっているため心強い。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで、昼間と夜間想定避難訓練を行っている。スプリンクラーの設置が予定されている。地域的に台風と水害の可能性が高く、運営推進会議で地域の協力をお願いしているところである。	○	運営推進会議でお願いしている地域の協力体制を、具体化できるように取り組みを進めていかれる事を望むと共に、様々な想定をした避難誘導の自主訓練をされることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分補給ができているかをチェックし、職員は情報を共有している。時々、法人の栄養士からバランスを見てもらいアドバイスを受けている。食事形態も、それぞれにあわせて、食べやすい大きさに切ったりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関も廊下も広くゆったりとし、各所に手すりが付けられ転倒防止になっている。ホールは窓が大きく光も入り明るく、換気しやすい。窓からは南国特有の植物を眺め、対面式の台所からは、ご飯の炊ける臭いが漂ってくる落ち着いた空間である。旧暦の七夕が近いため七夕飾りが掛けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、サンゴで作った表札が掛けられている。フローリングでベット対応だが、床に布団を敷いた方もいる。タンスやパイプハンガー、人形、時計、写真、位牌などを持ち込み、利用者にとって安心できる部屋となっている。		